

2015年7月9日

ウェザーニューズ、ひまわり 8 号を活用した航空事業者向け新コンテンツリリース 積乱雲発達エリアを検出、安全で経済的な航空機運航をサポート ～ 今後は航空機の運航に影響する火山灰や黄砂、霧の検知にも活用～

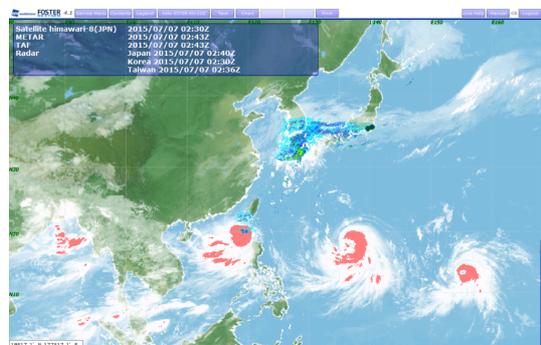
株式会社ウェザーニューズ（本社：千葉市美浜区、代表取締役社長：草開千仁）は、7月7日の新型気象衛星「ひまわり 8 号」の運用開始を受け、航空事業者向け運航支援コンテンツサービス「FOSTER-NEXTGEN」において、積乱雲の発達エリアをほぼリアルタイムで検出する新コンテンツをリリースしました。これにより、台風発生時や急速に発達する雨雲発生時に安全な飛行経路および飛行高度選定にお役立ていただけます。

◆ ひまわり 8 号の画像から台風に伴う積乱雲の発生・発達を検出 ～安全で経済的な航空機運航をサポート～

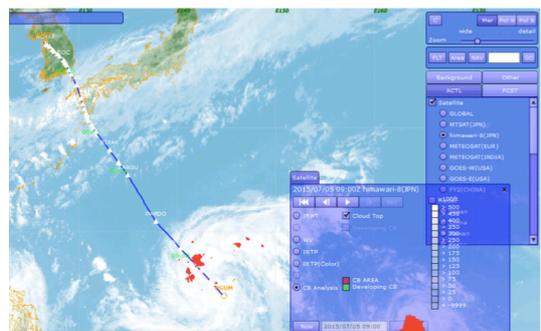
北西太平洋や東南アジアの空域では年間約 20～30 個の台風が発生しますが、各国の気象機関から発表される台風に伴う発達した積乱雲に関する空域情報は多くとも 1 時間に 1～2 回程度の更新頻度のため、安全性を確保するために航空機が台風を取り巻く雲域を大きく回避して飛行している事例が数多くみられます。荒天時に乗客の安全を守りながら、できるだけ遅延や燃料消費を最小限にするため、最適な飛行経路を選定することは航空事業者において重要課題となっています。

当社は、日本域の観測頻度が 2 分半に一度、その他のエリアは 10 分に一度となる「ひまわり 8 号」の観測情報から一定高度以上まで発達している積乱雲をほぼリアルタイムに検出し、近隣航路を飛行する航空機に対して注意喚起を行なう新コンテンツをリリースしました。この新コンテンツは、航空事業者向け運航支援コンテンツサービス「FOSTER-NEXTGEN」から閲覧でき、航空機の予定飛行経路や飛行中の機体位置を重ね合わせる事で最適な飛行プラン/ルートを検討することができます。台風だけでなく熱帯低気圧や、梅雨前線に伴う積乱雲の発生も検知可能なため、日本・アジア域の航空機の安全運航を広くサポートして参ります

また、「ひまわり 8 号」では観測バンド数が増加したことにより、カラー画像の取得や複数画像の差分解析が可能となるため、航空機の運航に影響する火山灰や黄砂、霧などの検出にも取り組んで参ります。



運航支援コンテンツ「FOSTER-NEXTGEN」
7/7の積乱雲発生エリア
台風9号・10号・11号の雨雲の中で、特に積乱雲が発達しているエリアを赤色でアラート表示



予定飛行経路を重ね合わせて、
最適な飛行プランの検討に活用